

1/22 地元との連携を強化
Rapidus 千歳事務所を開設



工業団地「千歳美々ワールド」に最先端半導体の製造工場を建設中の Rapidus（ラピダス）株式会社が、市内の中心市街地に道内初の常設拠点となる千歳事務所を開設しました。この事務所では、北海道における窓口として、地元企業との面談や総務・採用関連などの業務を行う予定であり、千歳市からも職員を1名派遣して業務の支援を行っています。千歳事務所での開所式には、Rapidus 社の東会長、小池社長に加えて、横田市長をはじめとした地元の関係団体代表者が来賓として参加し、事務所の開所を祝うテープカットが行われました。

1/7 新年の伝統儀式
アシリパノミ



千歳アイヌ協会の新年を祝う儀式《アシリパノミ》が蘭越生活館で開催され、協会員、千歳アイヌ文化伝承保存会の会員や来賓など約70人で、おごそかに儀式が行われました。千歳アイヌ協会会長の中村 吉雄氏が祭司を務め、火の神様（アペフチカムイ）への捧げ物などを通じて、一年の幸福をカムイ（神々）にお祈りしました。また、儀式の後、引き続き開催された新年交礼会では、アイヌ民族の伝統料理が振る舞われたほか、千歳のアイヌ文化伝承保存会と浦河アイヌ文化保存会による古式舞踊が披露されました。

1/5 生鮮食料品の安定供給と市場取引の活性化を祈念
公設地方卸売市場 初せり



今年最初のせり《初せり》が、千歳市公設地方卸売市場で行われ、市長をはじめ市場連絡協議会役員、買受人や来賓など、関係者約40名が出席。同連絡協議会 高木 博 会長から「令和6年はこれまで以上に市内の経済活動が活発化し、生鮮食料品の取扱いが増えることを期待している」との挨拶の後、三本締めが行われました。《初せり》では、買受人約15人が参加し、高級ミカンやブドウ、イチゴ、人参や白菜、お正月用の七草など約30品目がせりにかけられ、市場内は、せり人の活気あふれる声が響いていました。

1/5 陸上自衛隊北部方面隊 災害派遣
被災地で入浴支援



能登半島地震の被災地を支援するため、陸上自衛隊北部方面隊から災害派遣部隊が出発しました。市に所在する陸上自衛隊東千歳駐屯地からも第7師団第7後方支援連隊の隊員16名が、同僚隊員や千歳地方防衛協会、自衛隊家族会千歳支部などの激励を受けながら、被災地に向けて出発しました。派遣された支援部隊は、持ち運びが可能な野外入浴セットを現地まで運び、断水が続く被災地での入浴支援を行います。

1/7 再会を喜び、笑顔の節目
令和6年千歳市はたちのつどい



北ガス文化ホールで、《はたちのつどい》を開催しました。式典には、千歳ジュニアオーケストラの演奏が花を添えました。今回はたちを迎えたのは、1,219人。その中から公募で集まった「はたちのつどい協働会議」メンバーが、スローガン《ON YOUR MARK ～青春（あおはる）から「彩夏（さいか）へ～》を掲げ、式典を企画しました。キリンビール（株）北海道千歳工場長による適正飲酒啓発の講話や、はたちを迎えての決意を表明する《はたちの主張》、中学校時代の先生からのビデオメッセージなど多彩な内容に、参加者から歓声が上がった場面もあり、心に残る記念すべき一日となりました。



人々のうごき

《総人口》
97,919人（－43）
男性 49,759人（－18）
女性 48,160人（－25）
《世帯》52,196世帯（－22）
（ ）内は、前月との比較です。

2-1
現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているわけではないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

Vol. 10 人物伝 酒井憲次郎① Chitose Airport 100th anniversary

▶卓越したパイロット
明治36年、新潟県に生まれ、地元の工業学校を出たのち陸軍所沢飛行学校に入学。大正14年に一等飛行機操縦士となっています。大正15年8月に小樽新聞社に入社し、朝日新聞社に入り、東西定期航空に従事しました。

▶新聞空中戦
昭和3年には、国内定期航空の操縦士として飛行時間315時間あり、延べ飛行距離45,319km、これを無事故で達成した実績から、その年度の最優秀パイロットに贈られる《ハーモン・トロフィー》を受賞しています。

昭和7年9月、日本は満州国を承認し、日満議定書に調印。朝日新聞と大阪毎日新聞（大毎）との間で、調印式の写真を首都新京から日本本土に空輸し、どちらが先に記事にするかの取材合戦が起こりました（新聞空中戦）。大毎は輸入したばかりの最新鋭機、ロッキード・アルテア8D連絡機を新聞空中戦に投入。比較的 안전한 朝鮮半島を経由する航路を選択し、万全の体制を整えていました。対する朝日新聞機は、最大速度、航続距離ともに格段に劣るデ・ハビランド DH-80 プス・モス通信機でした。酒井は、機関士の片桐庄平を呼び、この圧倒的に不利な状況を打破するべく、ある相談を持ちかけました。（続く）

ちとせ空港 百年物語

手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る